

鮫島 弓起雄

SAMESHIMA Yumikio

## 鮫島 弓起雄

1985 東京に生まれる

2010 東京造形大学の彫刻科を卒業

主に彫刻作品とインスタレーション作品を制作、発表を続けている。地震波形をモチーフとした作品や、「八百万の神」という考え方を基にした作品、かつて大和絵でよく使われたすやり霞という手法を参考にした作品など、日本の文化や地域性に関連したものを制作する一方、空間の特性やその現場の要素を利用して、物理的にもコンセプトの面でもその場と深く関わり切り離すことのできないような空間演出も展開している。

また、東京都内のアートギャラリー「SYP GALLERY」でアート系国際交流会「Artist Meetup!」を毎月開催、日本とメキシコのアート交流プロジェクト「JaM -Artist in Homestay-」の立ち上げと運営に携わるなど、アーティスト同士の国際的で個人的な繋がりを探る活動も積極的に行っている。

### 活動歴

2020

- FUJIHANE×C-DEPOT「RESURRECTION」-その後の世界のアートと社会- / AOYAMA STUDIO 164/239 (東京)
- 「アートフルな暮らし」 / 伊勢丹浦和店 (埼玉)
- Brillia Culture Spice / 上野の森美術館 (東京)

2019

- 「茶室と現代美術 -和美・西美-」 / 遊美工房 (岡山)
- 「LENGUAJES ALTERNOS」 JaM -Artist in Homestay- / Ruido Proyectos Galería (メキシコ)
- Artisti “Q” Museum by C-DEPOT / 東京芸術劇場 (東京)
- Brillia ART AWARD 2019 / 東京建物八重洲ビル (東京)
- J-POPアート展 / 高松三越 新館5F 催事場 (香川)

2018

- 「MONOCHROME」 / ギャラリーアートコンポジション (東京)
- 水と土の芸術祭 小須戸ARTプロジェクト2018 (新潟)
- 池袋回遊派美術展 IAG ARTISTS SELECTION / 東京芸術劇場 (東京)

2017

- 亀山トリエンナーレ / 三重県亀山市 (三重)
- 「時」を感じるアート展 / 伊勢丹新宿店アートギャラリー (東京)
- ホテルアートフェス / パークホテル東京 (東京)
- IAG AWARDS 2017 / 東京芸術劇場 (東京)
- TAIWA Project 2017 / Gallery Conceal Shibuya (東京)

2016

- 「東京で小須戸」展 / S.Y.P Art Space (東京)
- ゲンビどこでも企画公募2016展 / 広島市現代美術館 (広島)
- アーティストインレジデンス 小須戸ARTプロジェクト2016 (新潟)
- Emerging Artist Review 「山と人と道」岡崎 詩をり・鮫島 弓起雄 / S.Y.P Art Space (東京)

2015

- 野外アート展示「トロールの森2015」 / 都立善福寺公園 (東京)
- 「アートスクランブル」展 / GALLERY494 (東京)

### 受賞歴

2019 Brillia ART AWARD 2019 入選

2017 IAG AWARDS 2017、C-DEPOT賞 受賞

2016 ゲンビどこでも企画公募2016、飯田志保子賞 受賞



## 八百万シリーズ

「八百万の神」という言葉がある。火の神、水の神、山の神、川の神、田んぼや家の神さま、台所、トイレの神さま。世の中のあらゆるものには神が宿っているという概念である。では、たとえそれが極めて人工的で機械的なものであってもやはり神は宿るのだろうか。例えば自転車のスタンドに、例えば扇風機のモーター部分に、例えばネジ一本に。

その機能を失い打ち捨てられた機械や道具などの部品と、人が強固な建造物を建てるために生み出した人造石であるコンクリート・モルタルとを組み合わせ、現代社会の中に佇む新たな神様を作り出していく。



### 役目を終えた道具が神様になる町 小須戸

使い古された道具や機械、その部品などが、魂を宿し形を変えて新しい神様となる。彼らは時折、町中のそこかしこにひっそりと佇むようにしてその姿を現す。

2018年の水と土の芸術祭にて発表された彫刻シリーズ。

モルタル、不要になった機械や道具  
2018



### 長井さんの力織機

左上作品：小須戸では江戸時代から織物の生産が盛んで、特に「小須戸縞」はとても丈夫で評判を呼んでいた。最後の小須戸縞職人である長井さんの工場には、当時使われていた機械動力式の織機・力織機が数台残っている。中にはトヨタ自動車の起源でもある豊田自動織機株式会社の力織機もあり、長井さんの話ではこの豊田のものが一番作りが良いのだという。この杼箱装置は緯糸を通す杼を入れるためのもの、これをいくつか連結させることで一反の織物に複数の色の緯糸を使うことができた。

右下作品：長井さんの工場の力織機は明治後期から大正期にかけて導入されたもので、それまで手織りで生産されていた小須戸縞の生産量を飛躍的に増加させた。戦後は国の方針で、古い織機を壊して新しいものを買う流れがあったがそれには乗らず、結果として長井さんのところには他ではあまり見られない貴重な古い力織機が残ることになった。ペダルレバーが上下に動くことで、二つに分けられた経糸が入れ替わり、杼箱装置から飛び出す杼を通すための杼道が作られる。

左上：H46×W27×D18(cm), 右下：H19×W51×D19(cm)

モルタル, 力織機の部品

2018

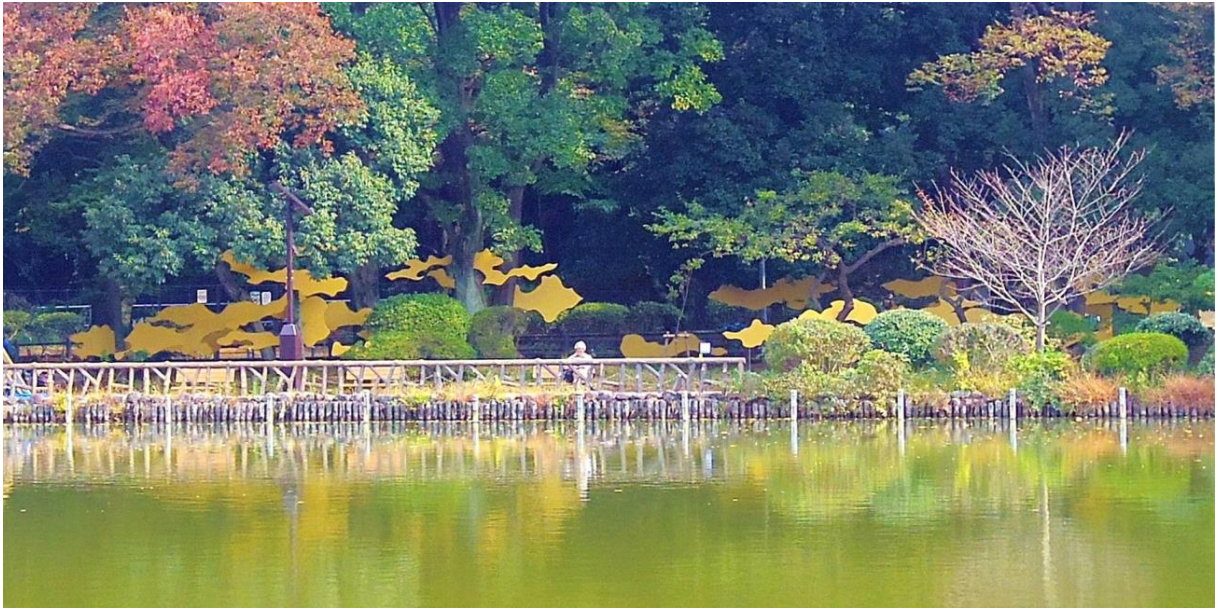


### 石田さんのモグラ捕り器

小須戸ARTプロジェクトのプロデューサーである石田高浩氏の実家は、風呂桶屋としてお店を開き、のちに金物屋も経営する様になった。

金物や創業当初モグラ捕り器は取り扱っていなかったようだが、近隣の農家の方からのリクエストがあり仕入れるようになった。モグラは直接作物を食べるということはないが、益虫であるミミズを食べてしまい、また畔にも穴をあけてしまうため、水田でお米を作っている小須戸周辺農家にとっては天敵である。このモグラ捕り器は店内に錆ついた状態で売れ残っていたもの。

H29×W14×D13(cm)  
モルタル、モグラ捕り器  
2018



### 善福寺公園一角之図

かつて平安時代から安土桃山時代にかけて、大和絵といわれる様式の日本絵画が多く描かれた。その大和絵特有の表現手法のひとつに、「すやり霞」というものがある。画面全体が煩雑にならないようにするための余白的効果のため、あるいは、同一画面上で複数の場面や時間を表現するときの区切りのために、金色の雲を描きこむというものである。この「すやり霞」を公園の中に出現させた。

「すやり霞」を具現化した金色の雲の効果によって、視覚的に公園内の時間や空間が分断され、日常の景色は奇妙な非日常の世界へと変わる。その雲の世界に入り込んだ人々は、普段とは違う空気や景色、通常では意識しない周りの人たちとの距離を感じ、また、雲の外から鑑賞する人たちから見ると、雲の中にいる人たちも含めた、金色の雲に包まれた空間全体をひとつの絵画、オブジェとして見ることができる。



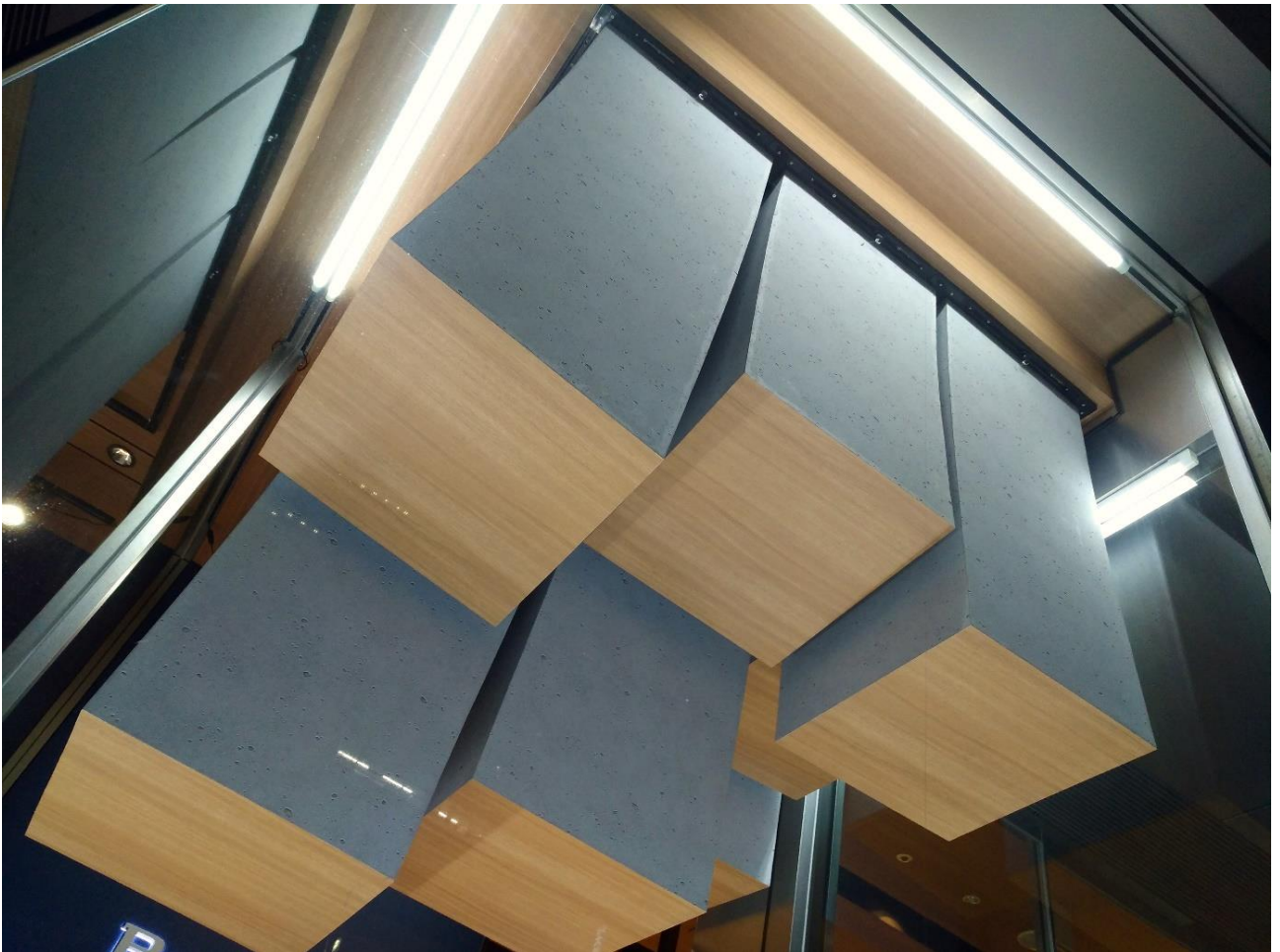
## TE・N・TSU・KI

最初にこのスペースを見た時、ひと際天井のダクトレールが異彩を放っているように思えた。珍しいマス目状の配置に加えて、3面をガラスに囲まれたこの空間においてこのレールが床置きを除いた唯一の作品設置方法であるがゆえに、他の様々な場所のそれよりも存在意義が大きく特別に見えるのではと考えた。この特徴あるダクトレールを視覚的にも物理的にも利用した作品を展開した。

「TE・N・TSU・KI」は天突き、ところてんを押し出す道具の名称である。東京建物主催のBrillia ART AWARD 2019入選作品。

H300×W200×D300(cm)  
発泡ポリスチレン, 壁紙, テグス, フック, 蛍光灯  
2019

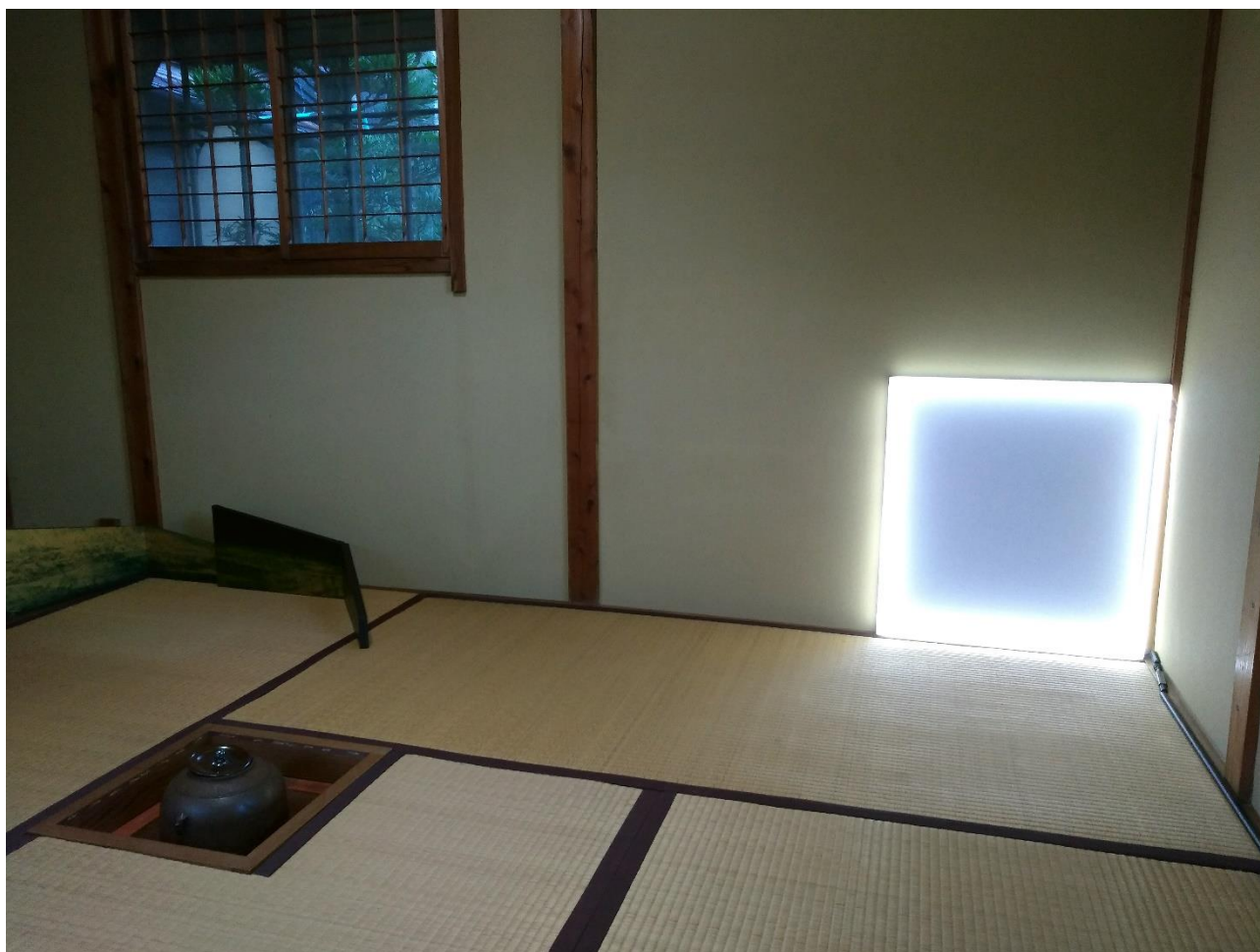




## 茶室と現代美術

茶の湯文化が人々の暮らしに根付く町、岡山県倉敷市玉島。この町の茶の湯文化は200年以上の歴史があり、最盛期には町全体で400もの茶室があったといわれ、現在でも40ほどの茶室が残っているのが確認されている。限られたエリアにこれだけの茶室が現存する例は全国的に見ても稀である。

今回はこの玉島で、岡山四大茶会のひとつである良寛茶会が行われる円通寺をはじめ、町に残る茶室のいくつかを活用した展覧会「茶室と現代美術」が開催された。



## 滄浪亭の光の話

この滄浪亭も玉島に残る茶室のひとつ。藪内流という流派の様式で120年以上前に建てられたものである。藪内流では茶室に七つの光の採り口を設けることが基本とされており、当初はこの茶室もその理念に基づいて造られていたのだが、ある諸事情で茶室の大きな特徴でもある躍り口を取り壊してしまったため、現在では光の採り口が六つとなってしまっている。今回はその躍り口を照明作品で再現し、失われてしまった七つ目の光を復活させた。

H66×W63×D2(cm)  
木材, LEDライト, シリコン, 布  
2019




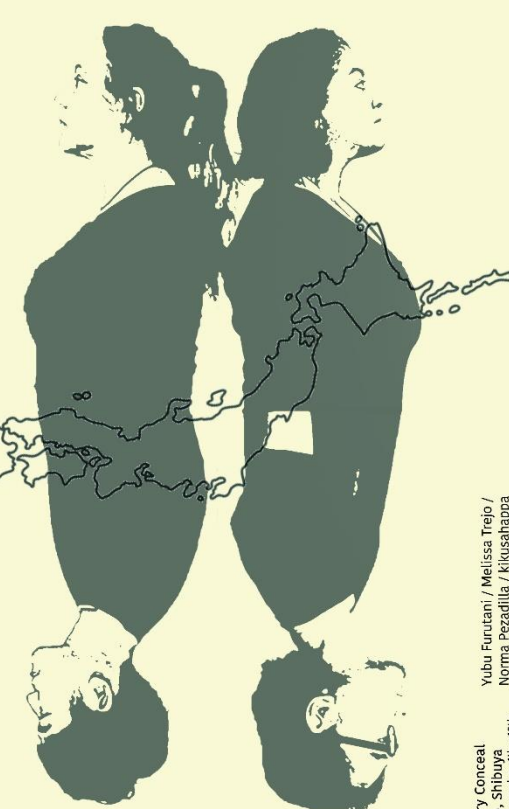
## Artist Meetup!

だいたい毎月開催のアート系国際交流イベント。を主催。



# JaM -Artist in Homestay-

アーティスト・イン・レジデンスから一歩踏み込んだ新たな滞在の形としてアーティスト・イン・ホームステイを提唱する、アート交流プロジェクト。その立ち上げ・運営に携わっている。

Gallery Conceal  
 Tokyo, Shibuya  
 2021, December 4th - 7th

Yubu Furutani / Melissa Trejo /  
 Norma Pezadilla / Kikusahappa

## Artist in Homestay


本展の出展作家は首都圏在住の4名のアーティスト。彼らは事前に、それぞれ異なる生活とは異なる地域、環境で10日間ほどのホームステイ滞在を行い、そこでの経験を基に新作を制作します。国籍や育ってきた環境、性別、学んだ分野も様々なアーティストによる、多様な作品が見られる展覧会となります。

滞在した地域の歴史や地理、伝統、産業、人々など、あらゆる要素の中から何を引き出すのか、それをどのような形で表現するのか、そこに表れるアーティストの価値観や地域での関わり方の違いを感じていただけることでしょう。

The 4 artists participating in JaM "Session 1.5" are all residents of the Tokyo metropolitan area.

Each of them stays with a host family for about 10 days in a different area and environment from their usual life, and creates a new work based on their experience of the homestay. This exhibition features a variety of works by artists of different nationalities, backgrounds, genders, and fields of study.

We hope that you will be able to feel the differences in the artists' values and the way they relate to the local community by seeing what they find in the history, geography, traditions, industries, people, and other elements of the area where they stayed, and in how they express them.




**Yubu Furutani**

Furioshi life, 2019 (ongoing series)

戸外から外れた環境に身を置いたり、他人の日常に触れ込むことで、感じる人々の心身の連続感や異なる文化パフォーマンスやインスタレーション、デジタルアート制作を行っている。

By placing himself in environments out of his daily life, or by entering into other's daily lives, he creates performance, installations, and objects that give a little sense of strangeness to the people involved.




**Melissa Trejo**

spaces walk, Tokyo street series, 2021

「写真を撮り、言葉にするのが新しい環境や未知の空間の表現を促してくれます。誰か共感したい想える経験や、気持を思い出す瞬間。」

Through photography I experiment unknown feelings, or emotions that are difficult to put into words. Experiences that I would like to share with someone and moments that reminds me of home.




**Norma Pezadilla**

link of the homestay, 2021

「私はアートをカタストロフとし、自分の人生を複雑な程の歴史として扱います。抑えられべきでないものはひとつもなく、すべての経験が表面と拡張をつなぐものとなります。そして、そのつながりがアートなのです。」

"I use art as catharsis and my life as a medium of visual cultivation. There's nothing that shouldn't be told, every experience is the link between the creator and the observer. And that, the link, is the art."



**kikusahappa**

いつかおちちいよの場所、2021

「自分と繋がりがなくなってしまっている僕らに人々や人々に向けて制作しています。なるべく多くのものを掛け入れたいのですが、なかなか難しいです。どうして僕らが大好きです。」

"I am making works to a person and people around me who have difficulty connecting with me. I want to accept as many things as possible, but it's quite difficult. I love Dotsuiraunen."

## JaM Session 1.5

2021 12/4 sat. - 12/12 sun. 11:00 - 20:00 (最終日 18:00 まで)

ギャラリートーク「アーティストと地域の関わり方の可能性」

日時：2021年12月11日(土) 14:00 - 16:40

ゲスト：スガタカン氏(株式会社 SAGOJO 取締役) 展覧会出展作家4名


予約制 | 参加費は JaM-Artist in Homestay / フェイスブックページをご覧ください。

**Gallery Conceal Shibuya**

主催：JaM-Artist in Homestay  
 協賛：文化庁「ARTS for the future.」

〒150-0043 東京都渋谷区東1-11-13 1F 11号室 2F 4F  
 TEL/FAX 03-3483-0720  
 E-mail conceal@concealstonplanning.co.jp

※本展覧会は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、観覧人数を制限させていただきます。



## 地域プロジェクト（神奈川県真鶴）

真鶴の特産品である本小松石を活用した、新しいプロダクトを提案・開発する取り組みに参加。

### WirelessWire News

Philosophy of Safety and Security

2022.03.18

## アーティストが地域にもたらす新しい切り口。プロダクトの種が蒔かれた実のある2週間

今回、真鶴に2週間滞在し青年部とともにプロジェクトを進めたのは、現代アート作家の**鮫島弓起雄氏**。東京を拠点に立体作品やインスタレーションを制作している。地域でかつて使われていた道具や機械を用い、ものに宿る魂を具現化した「八百万」シリーズなど、地域性を文脈に取り込んだ作品を多数発表しており、石材を扱った作品の制作経験もある。石材の基本的な扱い方は、大学時に在籍した彫刻科で学んでいる。多様なスキルを持った「旅人」を企業や地域とマッチングするサービス「[すごい旅人求人サイト SAGOJO](#)」を通じて、真鶴にやってきた。



▲2週間の区切りとなる29日の報告会で試作品を確認する青年部員たち

提案のうちの一つは、「石×遊び」がテーマの「石の音を楽しむオブジェ」。本小松石を積み重ねたオブジェに球を落とし、各層にあけた穴を通して落ちていく際にカランコロンと響く乾いた音を楽しむ機能で、子供たちに本小松石をより身近に感じてもらう狙いだ。「地域情報センターなど地域の拠点に巨大なものを置けば本小松石の意識づけになる」「積み上げる石に隙間を作り、落ちる過程がのぞき込めるようにしたら良いのでは」「モニュメント級の巨大なものを設置すれば観光客にもアピールできる」などの意見が寄せられた。

## 地域プロジェクト（石川県尾添）

金沢工業大学で最新テクノロジーを学ぶ学生たちとアーティストが協力し、地域に根差したアートの活動拠点を築く取り組みに参加。

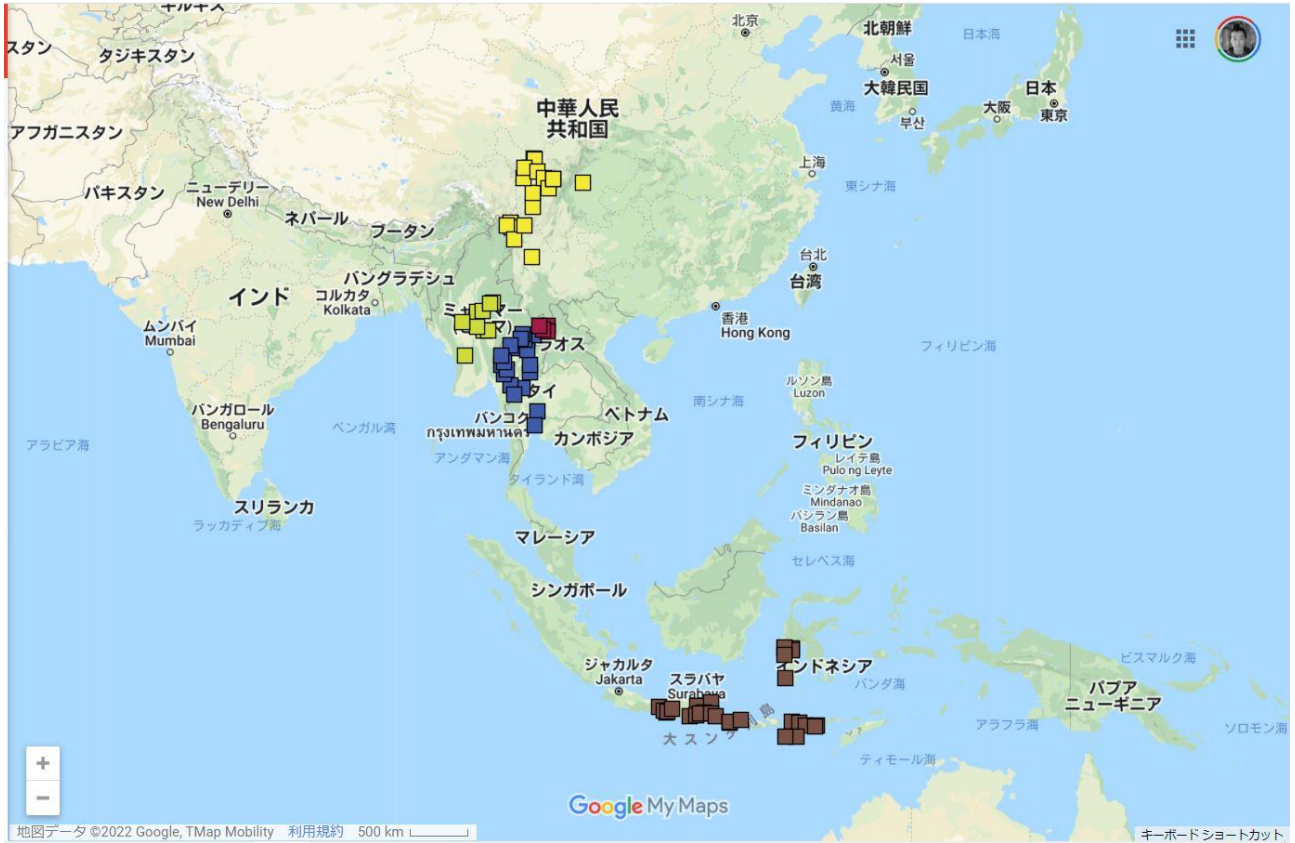


# 長期旅行 アジア中心

## 第1弾：1年7か月



## 第2弾：10か月





## 民族的行事

インドネシア バリ 成人式『ポトングギ』



タイ チェンダオ パローン族結婚式



インドネシア タナ・トラジャ お葬式



中国 理塘 チベット族馬祭り



誕生日イベント 一生に一度はやりたいことをやる

プロにメイクを依頼して女装



バンジージャンプ



氷上ワカサギ釣り (釣りキチ三平)



滝行



## 飲み屋巡り（立ち飲み・角打ち・入りにくいお店）



# 干支を食べる

2021年「丑・うし」



鮫島 弓起雄さんはお肉の情報館にいます。

2021年12月28日 · 港区 · 🌐

## 干支を食べる 第3弾「丑・うし」

芝浦屠場・お肉の情報館で、「牛」が「牛肉」になる過程を知り、その芝浦からお肉を仕入れている焼肉屋・まんてんで牛ホルモンを食べてきました。

### お肉の情報館パート

一番印象に残ったのは、実際の屠畜作業の工程を映した映像と、施設に届いた誹謗中傷や脅迫めいた手紙の展示。

白衣にキャップを被った作業員と思われる人ともすれ違い、「この場所で、屠畜が行われているんだなあ」と実感しました。

肉を食べる人も、食べない人も、一度は訪れてみると良いんじゃないかなと思います。

館内は撮影禁止のため、写真は冊子から。

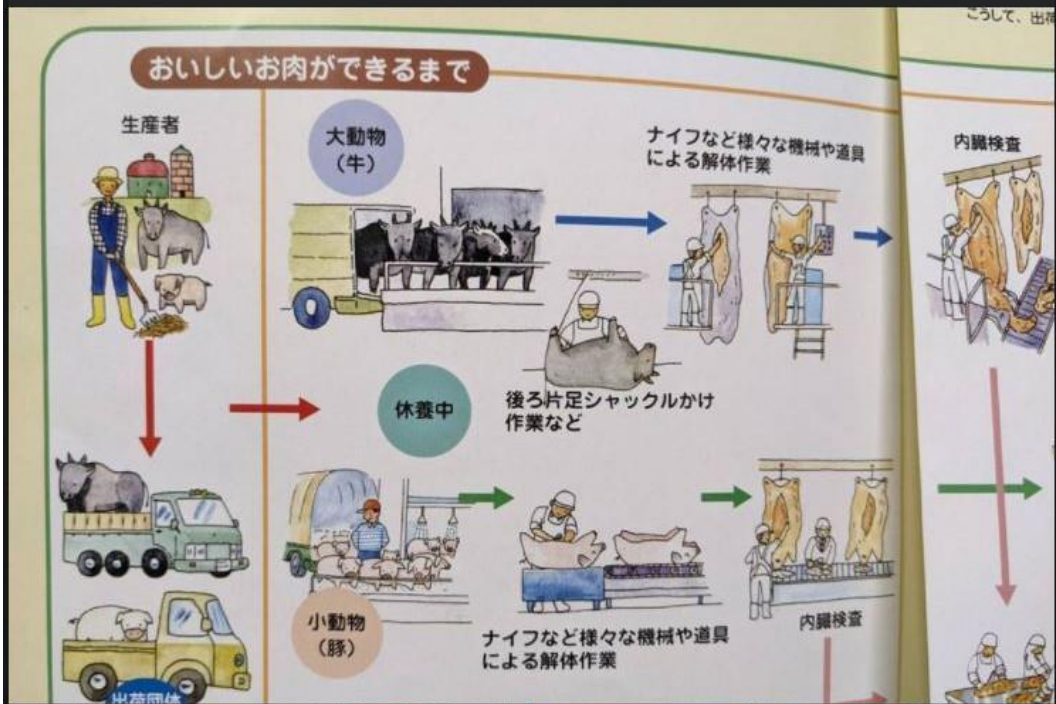
### まんてんパート

お目当ては一頭の牛から数百グラムしか取れないという希少部位「ヤン（第二胃と第三胃の間）」。

待ち望んでいたことも加わってか、これが一番美味しかった。他にもコリコリ（動脈）、ギャラ芯（第四胃）、リードボウ（胸腺）、コブチャン（小腸）など、全部美味しく大満足でした。

畜産に関わる人々に改めて感謝。

ごちそうさまでした。





鮫島 弓起雄

2020年12月13日 · 🌐



干支を食べる 第2弾「子・ネズミ」(ヌートリア)

本当はベトナムやフィリピンでちゃんとした？ネズミ料理を食べるつもりだったがコロナで断念。代わりにネズミ目のヌートリアを食しました。

ヌートリアで出汁をとったトマト煮。ヌートリアの照り焼き。臭みはなく弾力があって割とどんな味付けでも美味しく食べられるお肉でした！ごちそうさまでした。

ヌートリア：ネズミ目ヌートリア科の小型哺乳類。かつては洋溝鼠（ようどぶねずみ）とも呼んだ。水辺に雌雄のペアまたは雌を中心とする小さな群れをつくって生活する。寒冷地では生息できない。かつて毛皮を取るために輸入されたが、現在では侵略的外来種として問題になっており、イネやオオムギ、葉野菜などに対する食害のほか、絶滅危惧種に指定されているベッコウトンボの生息地を壊滅させるなど、在来種の生態系への影響も深刻である。兵庫・島根・岡山の3県では2005年度に4500万円を超える被害があった。（wikipediaより）

